

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104117		
法人名	社会福祉法人 豊友会		
事業所名	グループホーム喜楽園		
所在地	山口県下関市豊田町大字中村819番地		
自己評価作成日	平成28年3月26日	評価結果市町受理日	平成28年8月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年4月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『共に支え、共に生きる』の理念の基、そっと寄り添い優しい言葉かけと思いやりの心で、入居者様一人ひとりがその人らしく、一瞬一瞬を大切に過ごしていただけるよう心掛けています。 今年より始めたOKIRAKUサポーター制度は、年齢制限なく多数の地域の方やご家族にサポーターになっていただき、共助の精神による新たな支え合いを展開しています。このことにより地域の方がより気軽に施設に立ち寄れるようになり、在宅高齢者の安否確認にもつながっています。 毎月行っているサロンコンサートやOKIRAKU喫茶も四年目となり、入居者様と地域の方々やご家族との交流の場として定着してきました。OKIRAKU喫茶では、自分の食べたいものを選び自分で支払いをすることで自立支援を、地域の方と触れ合うことで地域の中で地域住民として暮らしていることを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人主催の月1回のサロンコンサートやOKIRAKU喫茶、喜楽園まつりなどで利用者はボランティアや小中高生、地域のひととの交流を重ねてこられ、今年度から導入されたOKIRAKUサポーター制度には、家族や地域の人の130名の登録を得ておられ、ボランティアなど地域の人の事業所への来訪の機会が増え、地域ぐるみの防災や高齢者の見守りにつなげられるなど、地域とのつながりを深めておられます。職員は利用者の思いを把握するための記録の工夫に取り組みまれ、利用者の話をじっくり聞いてその思いを把握するよう努めておられます。友人宅を訪問したり行きつけであった百貨店での買い物をするなど、得られた情報を職員同士で話し合われ、その人の馴染みの場所や行きたい所への外出の支援に活かされている他、外食の機会を設けたり調理の日の献立づくりに利用者も参加していただくなど、利用者の希望に沿った暮らしができるよう柔軟に支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と基本方針をホームに掲示している。名刺サイズに印刷したものを名刺に入れ携帯し、常に方針に即した介護が出来ているか自己評価できるようにしている。朝礼で唱和し、意識の徹底に努めている。グループホーム独自に「しっかり見つめ、理解できるように話しかける」も目標に掲げ支援している。	法人の理念と基本方針を事業所内に掲示し、朝礼で毎朝唱和するとともに、名札の裏に記載して常に携帯している。理念に沿った施設目標や事業所のキャッチフレーズ、事業所独自の目標を作成し、朝礼や月1回のミーティングで話し合って共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月一回開催している、サロンコンサートやOKIRAKUきっさは四年目を迎え、地域やご家族の間に定着してきた。今年度より、OKIRAKUサポーター制度を取り入れ、小・中・高と祭りの準備やソーメン流しの竹作りなど行っている。近隣の小・中学校の学習発表会に参加したり、劇や歌の披露にきている。また、小・中学生の職場体験も受け入れている。	毎月1回、法人施設で開催しているサロンコンサートやOKIRAKU喫茶に利用者が参加し、来訪しているボランティアや小中高生、地域からの参加者(20人から30人)と交流している。今年度より、OKIRAKUサポーター制度を導入し、家族や地域の人など130人の登録を得て、週1回、小学校の体育館で運動したり、車いすを使ったゲームなどをして福祉に対する理解を深めあい交流している。法人のまつりに地域の人が100人余り参加し、子供たちがゲームコーナーを担当し、利用者と一緒に楽しんでいる。祭りや素麺流しの準備、門松づくり、お話や卓球の相手、あやとりなどのボランティアの来訪がある。地域の人から野菜やスイカなどの差し入れがある。防災訓練に地域の人参加を得て、地域防災の話合いをしている。小中学生が職場体験や劇や歌の披露で来訪したり、利用者が学習発表会に参加している。利用者は地域の敬老会やお宮のお祭りに参加し、文化産業祭には作品を出品して見学に行ったり、道の駅に書初めの展示をするなど、日常的に地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロンコンサートに来て頂いた時など、福祉の豆知識として、認知症について等話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価は、運営者・管理者・職員ともに園の実践状況を客観的に把握出来る機会ととらえ、日常のケア業務のあり方を再認識している。 外部評価結果や改善策もミーティングで検討し、改善に向けた取り組みをしている。外部評価で指摘のあった、記録の書き方は本人の様子がわかるように、記入するよう心掛けている。	前回の外部評価結果を回覧し、ミーティングや朝礼で話し合い、管理者が目標達成計画を立てて職員に伝え、利用者の思いを把握できるように記録の書き方について一緒に考え工夫しているなど、できるところから改善に努めている。自己評価はケアの振り返りや見直しにつなげているが、全職員による取り組みになっているとは言えない。	・全職員による自己評価の取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催し、日々の活動写真を取り入れた資料を作成し、取り組み内容を報告している。また、インシデント、事故報告の提出状況や対策なども話し合いをしている。 地域の要望なども意見を交換し、地域への行事参加、施設行事への参加など日々の実践に反映させるようにし、今後は地域の方やご家族の参加がもっと増えるようにしたい。	会議は年6回法人他事業所と合同で開催し、利用状況、行事、食事栄養、看護、事故等の報告をして、話し合っている。地域情報や事業所行事などの情報交換をし、利用者の参加や地域との交流に活かしている。メンバーの意見から、時刻帯別の事故発生状況を分析し、注意を喚起するなど、意見をサービス向上に活かしているが、地域からのメンバーが1名(第三者委員)のみで、運営推進会議が十分に活かされているとは言えない。	・地域メンバーの拡大 ・会議を活用する工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスに関する内容や介護保険制度等、市担当者と連携を図るようにしている。サロンコンサート行事のパンフレット等を毎回担当者に渡し、今後さらに協力体制を築きサービス向上に努めていきたい。地域ケア会議に参加し、情報の交換にも努めている。	市担当者とは、運営推進会議の他、出向いて情報交換や相談をして助言をえたり、市庁舎に行事の案内を置いてもらっているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議参加時や地域ケア会議参加時、電話などで情報交換をして、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修や月一回のミーティングなどで施錠しないケアの大切さや、スピーチロック、身体拘束についての話し合いを行っている。 スピーチロックについては、職員同士が互いに注意し合っている。	同じ内容で2回身体拘束についての法人研修を行い、全職員が年1回受講している他、内部研修で学んで話し合い、職員は理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関に施錠せず、外に出たい利用者とは職員が一緒に出かけている。運営推進会議でのスピーチロックに関する意見を参考にして話し合い、職員同士で注意し合っている。地域の徘徊模擬訓練に職員が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修やミーティングでも話し合い、意見交換し、虐待防止についての理解を深めている。 対応の仕方や言葉使いなど職員間で注意し合える環境作りに取り組んでいる。 職員同士が意見交換することで、ストレスも減り、虐待の起こらない環境作りに努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に成年後見知制度を利用され手いる方はいないが、外部研修において学ぶ機会を設けている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書などを基に丁寧に説明を行い、同意書に署名・捺印を頂くようにしている。 いつでも、気軽に不安なことや疑問を聞けるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム苦情申し立て窓口を置き、また、第三者委員会などで説明をして、いつでも気軽に苦情など申し出て頂ける環境を作っている。 また、『苦情箱』ではなく、『意見箱』を設置している。 入居者様からは、いつでも、どの職員にでも言い易い環境を整えるよう気配りをしている。	契約時に相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続き等を家族に説明している。意見箱を設置している。家族に利用者の日頃の様子を伝え、意見を言いやすい雰囲気をつくっている。家族から協力医療機関以外の受診の支援の要望があり、事業所で受診の支援をしている他、買い物や外食の支援を行うなど、意見を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一回面談を行い、意見を聞く機会を設けている。変化する入居者様、家族の要望など、その都度、関わっている職員と話し合いをしている。代表者とも年に2回職員と食事をしながら話をする機会を設けている。	月1回のミーティングや朝礼で管理者やリーダーが職員の意見や提案を聞いている他、日常的にも聞いている。半年に1回面談を行っている他、年2回食事会で代表者と話す機会を設けている。法人の6委員会(接遇・記録、感染・環境、褥瘡・創傷、エコ・排泄向上、事故防止、抑制・虐待)に職員が参加し意見や提案を出している。職員の意見から収納棚を設置したり、利用者の外出支援や行事の提案を受け、ケアに反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	個人面談などの機会を持ち、その時の意見や提案を参考にし、向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。職員全員が管理者の携帯電話に連絡ができるようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関しては、勤務調整をして受講しやすい環境を作っている。研修に関しては、情報はすべて回覧し職員に伝え、希望者は出来る限り研修受講してもらっている。法人全体で必要時にはいつでも、経験年数の長い職員が個別の指導を行っている。	外部研修は、情報を回覧して職員に伝え、勤務の一環として参加の機会を提供している。法人研修は同じ内容で月2回、緊急時の対応、コミュニケーション、食中毒、インフルエンザ、腰痛予防等について実施し、参加できなかった職員にはリーダーが伝達している。内部研修は年11回、リーダーが講師となって、事故防止と初期対応、熱中症、虐待防止等について実施している。新人は外部研修や法人研修を受講後、働きながら先輩職員が指導している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会などの研修に参加し、同業者との交流の機会を設けている。他施設見学にも行き、また、他施設からの見学や研修もあった。今後も、サービスの質の向上できるよう情報交換したい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人の話をゆっくり、しっかり聞くことを心掛け、入居への大きな環境変化を最小限に抑え、生活に馴染めるよう関係作りに努めている。 不安のある利用者には、出来る限り個別にゆっくり話を聞いたり対応したり、日々しっかり観察し、困っていることを把握するよう努め、安心して生活して頂けるよう図っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との話し合いを持ち、施設の方針等を理解して頂き、困っていること、不安なこと、要望などを聞きながら、ケアプランに反映することにより相互の信頼関係を築くように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望をしっかりと受け止め、見極めることは難しいが一つひとつ確認し合いながら、話を進めている。言葉のすれ違いが無いよう細かい所まで話し合うよう努力している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来ることは一緒に行い、洗濯物たみ、おやつ作り、調理作りでは、職員が教えて頂いたり、意見を言い合ったりなど、支え合いの関係を築き、信頼関係が生まれてきている。 昼食と夕食は、職員と一緒に会話を楽しんでいる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際に、ご家族に本人の様子をしっかりと伝えるよう心掛けています。前年同様クリスマス忘年会を行い、入居者様、ご家族様、職員と一緒に過ごし、絆を大切にしています。 毎月、喜楽園便りと共に、家族に担当職員が本人の最近の生活の様子を伝えた手紙を送っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は出来る限り制限せず、本人と家族や知人との外出の機会を多く作り、入居前からの習慣の継続や社会との繋がりを大切にしています。 面会に来られた方やご家族にお礼の手紙を書いて関係が途切れないように支援しています。 外出企画では、ご本人の馴染みの場所や行きたい所を話し合い、考慮し、行き先を決定しています。	家族の面会、親戚の人や友人の来訪がある他、年賀状や暑中見舞い、手紙、電話での交流を支援している。友人宅への訪問や地域の敬老会への出席、生まれ育った場所へのドライブ、馴染みの場所での花見、デパートや大型商業施設、スーパーマーケットでの買い物、美容院の利用、習字等趣味の継続、家族の協力を得ての自宅訪問など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士との相性を考慮した外出や趣味活動を通じお互いに協力、支え合うよう支援し、生活にメリハリを持たせるようにしている。 食事の盛り付けなど、入居者様同士で話し合いをして決めることも多い。 また、共同生活室で座る位置も、入居者様の性格や相性等考慮し、ソファを置く位置も互いに関わりが持てるよう工夫している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去された、ご家族に施設での行事の案内や入居時の写真なども送り、関係性を大切にするよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員とケアマネをはじめ、全職員で本人の意向や思いをくみ取るよう努め、そして希望や気持ちを受け止めて、支援内容に生かすよう取り組んでいる。本人の希望を中心とした暮らしが出来るよう柔軟に対応できるように努めている。 また、本人の意向や思いは、経過記録に細かく記入するようにしている。	入居時のアセスメントシートやフェイスシートを活用している他、日常の関わりのなかで聞き取った利用者の言葉や様子を経過記録に記録して、状況に変化があったときや介護計画の見直し時に、アセスメントを行い、思いや意向の把握に努めている。職員間で検討し、今年度から本人の言動に着目した記録を工夫している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談の際にご家族より、生活歴や暮らしぶりの把握に努め、居室内に装飾や生活習慣等、本人らしさを残すことを大切にしている。入居後も、できるだけ情報収集するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にアセスメントを行い、一人ひとりの一日の暮らしぶりや生活リズムを把握するよう努めている。 また、ケアプランの内容を実施し、適切に支援できているかモニタリングしていくことにも努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いを基に、ご家族から意見を聞き、各職員が入居者様の現状を把握すると共に、カンファレンスを通じて問題点や改善点を話し合い、介護計画を作成している。毎月のミーティングではスタッフ等関係者が情報共有や共通理解を図っている。	本人や家族の思いや意向、主治医や看護師等関係者の意見を参考に、月1回のミーティング時のカンファレンスや担当者会議で職員が話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月から6ヶ月毎にアセスメントして見直している他、利用者の状態や要望の変化に応じて計画を見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきは、入居者様の言葉に対して、職員はどう答えたかなどにも記入し、職員間のケアの共有をしている。申し送りノートやメモ書きでも、本人の様子や要望など、全職員が情報を確認できるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望を取り入れ、買い物、ドライブ、病院受診などニーズに柔軟に出来る限り対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議を中心に、地域との情報交換がひろがっている。近隣のスーパーへの買い物や飲食店への外食など活用し、馴染みの関係を維持し、新たな関係作りにも取り組んでいる。今年度より移動図書をはじめ、気軽に本を借りる環境を整えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の希望を聞き、事業所の協力医の他、ご本人が望む医療が受けられるようにしている。内科医以外では、ご家族と相談しながら、本人に適切な病院で受診できるよう配慮している。	本人や家族の希望するかかりつけ医とし、他科を含めて家族の協力を得て事業所が受診の支援をしている。必要に応じて協力医療機関から往診を受けている。受診結果は経過記録や健康観察記録、連絡帳に記録し、職員間で共有すると共に、家族に電話で報告したり面会時に報告して共有している。緊急時はかかりつけ医や協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の小さな変化で気になることは併設特養看護師に相談し、必要であれば診てもらい、早めに病院受診している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の備えとして、町内にある総合病院の地域連携室との連携体制を取っている。また、入院中の入居者様に面会したうえで、病院関係者と情報交換を行い、現状把握して、退院後のケアが効果的に出来るよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについては、ご本人ご家族が最後に何を望むか、しっかり確認し、意思統一を図りながら支援できるような体制を整えていきたい。 各医療機関とも密に連携をとれるよう、体制は整えている。	重度化や終末期について事業所でできることを契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族やかかりつけ医と相談し、家族の意向に沿って医療機関や他施設への移設を含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	毎月のミーティング時に事故防止の初期対応や応急手当など勉強会をし事故防止に取り組んでいる。併設の看護師による研修も行い、実践力を身に付けている。 誤嚥のリスクの高い入居者様は、横に座り、ゆっくり、よく嚥んで食べるよう常に声掛けをしている。	事例が生じた場合は当日の職員がインシデント報告書や事故報告書に状況や対応を記録し、管理者やリーダー、計画作成担当者に報告している。職員には朝礼で報告し、報告書を回覧して全職員が共有している。運営推進会議の意見を参考に事故の起こる時間帯を分析し、ミーティングで話し合っ事故防止に努めている。法人研修で年2回、内部研修で年10回、誤嚥、応急手当、熱中症、緊急時の対応などについて学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応マニュアルを整備し、地域の方を交えて避難訓練を行い、消火器の使用方法や入居者様の救出方法を学び、被害発生時に備えている。	消防署の協力を得て年2回、法人施設と合同で、昼夜を想定した消火、通報、避難訓練を地域の人も参加して実施している。地域の人を含めた緊急時連絡網があり、訓練参加時に話し合いをしている。災害時に地域の方の避難場所として事業所を活用することなどを確認し、協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念をホームに掲示している。名刺サイズに印刷した名札に入れていつも見れるようにしている。 常に人生の先輩として個人の人格を尊重した接し方を心掛けている。特に、言葉掛けは相手の気持ちをくみ取りながら、丁寧に優しく話しかけるように職員同士お互いに意識して実践するよう心掛けている。	法人研修で接遇やコミュニケーションについて学び、職員は理解して人格の尊重とプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。内部研修で声かけ等の対応について話し合い、気になるところは職員同士で注意し合っている。プライバシーを損ねない排泄の介助や個人情報の保管にも配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位ではなく、いろいろな場面で、ご本人が選択することが出来る言葉かけを心掛けている。 その日のおかずに対して、パンかご飯を選んで頂いたり、入浴の時間を変更したり、自己決定できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は決まっているが、入居者様に無理強いをするのではなく、その人に合ったペースで支援するように努めている。お風呂は一番風呂の良い方や夕方入浴されたい方など、なるべく本人の意思を取り入れるようにしている。「今日は外出したい」と言われた希望により、散歩やドライブに行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用されている方が多く、ご本人の希望に添えるよう、また、馴染みの関係が築けるよう支援している。毎朝髪をといたり、お化粧されたり身だしなみを整えている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、テーブル拭き、お盆、箸並べたり等、それぞれの方が出来ることをして頂いている。盛り付けでは、どれをどのお皿に、どんなふうに盛り付けるなど職員と話し合いながら行っている。また、月一回の調理には、食べたいものを話し合い、献立作成、買い物から調理まで楽しみながら行っている。	三食とも法人の配食を利用し、月1回の給食会議で利用者の要望を反映させた献立をたて、利用者の状態に合わせた形状で提供している。おせち、ひな祭り、そうめん流しなど、季節に合わせた行事食を楽しめるよう支援している。利用者は盛り付け、台拭き、配膳、茶わん洗いなどできることを職員と一緒にしている。利よ社と職員は同じテーブルを囲んで同じものを食べながら、会話を弾ませている。月1回調理の日を設け、献立づくりや買い物、調理などを利用者と職員が一緒に行っている。月1回のおやつづくりの日にはたこ焼き、フレンチトースト、白玉団子、イチゴ大福などをつくっている。その人の食べたいものを注文できる外食や、OKIRAKU喫茶、週2回の移動パン屋での購入、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の量が少ない方には、家族と話し合い、高カロリーのゼリーやプリンなど常備していて、体調に合わせて提供している。水分摂取量についても、身体記録に一時間おきの摂取欄を作っており、お茶以外の飲み物は何を飲まれたかも記入し、それぞれの好みの飲み物で水分摂取が充分とれる様工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに声掛けを行い、出来る限り職員見守りの中、ご自分で歯を磨いて頂いている。また、磨き残しやご自分で出来ない方は職員が口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で確認し、一人一人の排泄パターンを把握し、個別に声掛けをし、出来る限りトイレでの排泄が上手くいくよう努めている。	排せつチェック表を活用してパターンを把握し、プライバシーに配慮した声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況はチェック表で確認し、職員全員が把握できるようにしている。 職員が状況を見ながら、水分補給を促したり、適度な運動をしたり工夫している。また、食事には乳製品を取り入れており、週一回のヤクルト販売も利用している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しては、曜日や時間を決め対応しているが、ご本人の希望があれば、随時入浴して頂いている。温泉とマイクロバブルでの入浴を楽しみにしている方も多い。	日曜日以外の毎日入浴可能で、13時30分から15時30分の間、週2回はゆっくりと入浴できるように支援している。利用者は歌を歌ったり、職員と会話して、マイクロバブルや温泉湯を楽しんでいる。状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴など個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や状態に応じて、居間のソファや居室のベッドで休息して頂いている。 また、安眠できるよう、入居前から習慣でされていた、ホットタオルを用意したり、馴染の毛布や枕を持って来て頂いている。また、足湯も喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧をファイルにして、職員が飲まれている薬に対する理解に努めている。 臨時薬が出た時は送りノートに記入し、職員全員に周知している。服薬際には、一人ひとりの名前、〇〇食後かを声にだし、呑み込むまで見届け服薬ミスの無いようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除、畑仕事、料理盛り付け、カラオケ、塗り絵、習字、写経、トランプ、かるた、お手玉、風船バレー、卓球、グランドゴルフ、体操、散歩、ドライブなど、一人ひとり好みに合わせた支援が出来るようにしている。 今年度は新しくそろばんや計算プリントを始め、喜ばれている。	餅つき、節分豆まき、ひな祭り、喜楽園祭り、そうめん流し、納涼花火大会、さんま祭り、敬老会、クリスマス忘年会などの季節の行事、誕生会、百寿の祝い、サロンコンサート(フラメンコなど)、OKIRAKU喫茶、絵画教室、おやつづくり、調理の日、ボランティアの来訪(三味線、二胡など)、小中学生との交流、習字、ぬり絵、写経、脳トレ、そろばん、計算プリント、卓球、体操、歌を歌う、移動図書館の利用、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ガラス拭き、芋の苗植え、芋ほり、緑のカーテンの水やり、草取りなど、活躍出来る場面づくりをして、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、近隣へのドライブ等の外出はご本人の意向を大事にし、柔軟に対応し四季折々の風物に触れる機会を出来るだけ作っている。 また、家族の協力を得て、ご本人の希望を聞き取り外出・外食など出掛けている。 ご家族が、還暦を迎えられるとゆうことで職員と一緒にプレゼントを買いに行った。 また、車椅子使用の入居者様が、ご家族と1泊旅行に出かけられるよう支援した。	初詣、花見(梅、桜、菖蒲、コスモス)、蛍見物、リンゴ狩り、産業祭、秋祭り(神輿くぐり)、お寺の御開帳、功山寺、壇ノ浦、豊北町道の駅、豊田町アブニール、友人宅への訪問、地域の敬老会への出席、小学校の学習発表会、生まれ育った場所や近隣のドライブ、百貨店や大型商業施設、スーパーマーケットでの買い物、馴染みの美容院の利用、家族の協力を得ての自宅訪問や外食、外泊、畑の世話、散歩など、本人の希望に合わせて日常的に戸外に出かけられるように支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いにより、居室に小遣いを置いて頂き、買い物に出掛けたり、週一回のパンの移動販売、ヤクルト訪問販売を利用し、一緒に品物を選びながら買い物の支援をしている。 月一回法人で開催されるOKIRAKU喫茶では、自分で食べたいものや飲み物を選び、自分で支払いを行うことを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、ご家族と電話で話が出来るよう支援したり、手紙、暑中見舞い、年賀状などご家族に出している。何度かやり取りしているうちに今では定期的に届く家族からの便りを心待ちにしている方もおられる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、居室の温度・湿度チェックし快適に過ごせるようにしている。窓を開け空気を入れたり、床暖房やエアコンを使用し、健康的な環境もたもつように努めている。 また、シクラメン等の鉢植えを置いたり、玄関には季節ごとにペストリーを張り替え、居間には職員と一緒に作成したものを貼っている。	リビングには大きな窓から明るい陽ざしが差し込み、時には卓球台を出して楽しめるゆったりとした空間になっている。季節の花を飾り、壁には利用者と一緒につくった季節の飾りや事業所だよりを貼って会話のきっかけをつくっている。脱衣所の足ふきマットは個人用に仕分け、化粧台で入浴後の整容がゆっくりできるよう工夫している。温度や湿度、換気などに配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に本や雑誌コーナーを設け、好きな時に読んで頂けるようにしている。ソファや食席等、気の合った者同士が近くに居られるよう気を配っている。ご入居者様ごとのお気に入りの場所を把握し、出来る限りその場所で過ごせるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた家具や寝具など思い出のあるものを持って来て頂き、一人ひとりが安心して過ごせるような空間にしている。	布団類、テレビ、冷蔵庫、鏡台、テーブル、いす、時計、雑誌、脳トレ本、アクセサリーボックスなどを持ち込み、ペーパーフラワー、本人や家族の写真などを飾って、その人らしく居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下や浴室、トイレは手すりがあり、安全に移動できるようにしつつもご本人に出来るだけ自分の力を使って頂けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 喜楽園

作成日：平成 28 年 8 月 8 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	全職員が自己評価の意義を理解する。	全職員が自己評価の意義を理解する。	・外部評価の理解を深めるために、会議等で説明し、1人1人が把握できるよう努め、日々のケアの振り返りや見直しをする。	12ヶ月
2	5	地域の方、家族の方の運営推進会議への参加が少ない。	運営推進会議への参加を増やし、会議を活用する。	・自治会、民生委員への参加の依頼の継続。 ・家族へ手紙や来園時に参加の依頼の継続。 ・地域の学校、警察、消防署への参加の依頼。	12ヶ月
3	35	全職員が実践力を身に付けるための初期対応、事故防止、応急手当の訓練の継続。	全職員が事故防止、初期対応、応急手当の実践力を身に付ける。	・事故防止委員より、定期的な研修(年2回)を継続する。 ・月1回のミーティング時に勉強会を継続する。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。